



INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPAN ICOMOS NATIONAL COMMITTEE
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F, Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo Japan 101-0003
Tel & Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

報道関係者各位

受賞者関係機関各位

2015年12月7日
日本イコモス国内委員会



日本イコモス国内委員会が 「日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞 2015」を選出

日本イコモス国内委員会は、建造物、伝統的建造物群、文化的景観、遺跡である記念物及び歴史風土の保存、保全及び活用の振興をはかるため創設された「日本イコモス賞」および「日本イコモス奨励賞」の選考を実施し、2015年の受賞者を選出しました。

日本イコモス賞：

文化遺産の保存活用理念、保存活用活動、保存活用プロジェクトの前進に貢献し優れた業績をあげた者に授与します。

日本イコモス奨励賞：

若手研究者の育成と研究の奨励を目的として、文化遺産の保存活用理念、保存活用活動、保存活用プロジェクトの前進に優れた業績をあげたおおむね45歳未満の者に授与します。

「日本イコモス賞 2015」および「日本イコモス奨励賞 2015」受賞式の開催

「日本イコモス賞 2015」および「日本イコモス奨励賞 2015」の受賞者発表及び授賞式を以下の通り開催いたします。授賞式では、受賞者よりスピーチをいただきます。

「日本イコモス賞 2015」「日本イコモス奨励賞 2015」授賞式

日時：2015年12月12日（土）15：15～16：15

場所：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 セミナー室（地階）

〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43

ICOMOS

ICOMOSは、1965年に設立された国際NGOで、加盟各国の文化遺産保存分野の第一線の専門家や専門団体によって構成されています。ユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、文化遺産保存の理論、方法論、科学技術の研究・応用、およびユネスコ

の世界遺産条約に関しては、諮問機関として、登録の審査、モニタリングの活動等を行っています。現在、参加国は110カ国を数え、会員は11,000人以上にのぼり、文化遺産の価値の高揚のための重要な役割を果たしています。

日本イコモス国内委員会（1979年発足）は、日本国内のICOMOS会員が組織する団体で、これらの目的を果たすための国際ネットワークの日本における拠点として活動しています。

イコモス国内委員会について

日本イコモス国内委員会は、2015年12月現在、約430名の会員によって構成されています。総会の他、年4回の理事会・研究会・来日外国人専門家との懇談会などを開催しています。

日本イコモス国内委員会の基礎は、関野克博士（東京大学名誉教授、元東京国立文化財研究所長）によってつくられました。イコモスの第3回総会（1972年、ブタペスト）で日本国内委員会が承認され、関野博士が委員長に指名されました。1979年の総会で日本イコモス国内委員会の規約を採択し、ICOMOS執行委員会の承認を経て正式に発足しました。

日本イコモス賞2015 受賞内定者（1者）

※受賞者は12月12日の理事会で正式に承認されます

山出 保（やまで たもつ）

金沢市元市長

【略歴】

1931年生。金沢大学卒。金沢市職員を経て平成2年～平成22年まで市長。

2000年 日本建築学会文化賞

2005年 日本都市計画学会石川賞

2010年 フランス レジオン・ド・ヌール勲章シュバリエ章 他

『金沢の気骨』2013年 北國新聞社

『金沢を歩く』2014年 岩波書店

【受賞理由】

金沢市の元市長 山出保氏は、平成2年の就任以来その20年の在任期間を通じて多岐にわたる分野で卓越した行政手腕を発揮したが、その中でも「金沢は歴史と文化に責任を持つ町でなければならない」として、一貫して総合的・包括的に歴史的環境保全施策を推進して顕著な成果を挙げ、歴史文化都市金沢の評価を不動にした業績は特に高く評価される。

山出氏は現代に生きる中核都市として、都心軸線整備等金沢の都市基盤の整備・再整備を進める一方、伝統環境や伝統文化等の保存・継承に向けて、「金沢市湯桶江戸村」、「市民芸術村」等の歴史文化施設の保存・整備や金沢職人大学の設置、旧町名の復活等をはじめ、「こまちなみ保全条例」、「用水保全条例」、「金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例」等の独創的な歴史文化環境の保全に関する多数の条例の制定、また重要伝統的建造物群保存地区選定の推進、歴史まちづくり計画の策定等、歴史文化都市の基盤づくりを精力的に実施した。

そして、このような歴史文化のまちづくりを効率的、一体的に推進するため、都市政策局内に歴まち計画の総合調整や文化財の保護活用を推進する歴史遺産保存部を設けた。そして、その若手担当職員は職人大学校や文化庁への長期の派遣などにより積極的な能力向上を図ってきた。さらに、歴史遺産保存部の他、都市整備局の都市計画課、景観政策課等をあわせて15の関連課を「まちづくりフロア」として一体的に集中配置し、部局を横断する連携を実現し、総合的な歴史的環境保全施策を展開してきた。

これらは、この間の金沢市民や金沢市職員の積極的な賛同と参加があったとはいえ、山出氏の強い信念とリーダーシップ無くしてはとうてい生まれ得なかった成果といえよう。

山出氏の金沢市の歴史的環境保全に関する長年の貢献とこれを通じて全国の歴史まちづくりの先導役を果たされてきた業績に対して、日本イコモス賞 2015 を贈呈するものである。

日本イコモス奨励賞 2015 受賞内定者（2者）※受賞者は12月12日の理事会で正式に承認されます

豊川 齋赫（とよかわ さいかく）

小山工業高等専門学校 准教授

【略歴】

1973年生。東京大学大学院修了。現在、小山高専准教授。工学博士・一級建築士
『群像としての丹下研究室』2012年 オーム社
『丹下健三とKENZO TANGE』2013年 オーム社

【受賞理由】

著書『群像としての丹下研究室』及び編著『丹下健三とKENZO TANGE』にみる現代建築・都市計画史研究の業績。

我が国の建築家・都市計画家の中で世界で突出して認知され、尊敬されているのが丹下健三であることは論を待たない。

豊川齋赫氏の上記の著作は、一昨年生誕100周年を迎えた丹下健三について、その個人の思想や教育研究、設計等の実績等だけではなく、彼の主宰した東大建築学科・都市工学科の丹下研究室における調査・研究、及びその卒業生達の活躍等、日本のみならず世界の建築、都市計画の発展に寄与した丹下健三スクールの全体像について、豊川氏独自の構想と使命感を持って、膨大な論文、報告書・雑誌記事等原資料を収集・分析し、ヒヤリングを重ねた貴重な成果である。これまで幾多の丹下健三研究が発表されているが、豊川氏のこの2つの著作は20世紀を駆け抜けた巨人、丹下健三を、彼をとりまく群像を際立たせることによって、より高みと深み、さらには厚みを与えることに成功している。

現在、2020年の東京オリンピック開催に向けてその競技施設のあり方等について、様々な議論がされているが、丹下健三及びその研究室メンバーが前回の東京オリンピックの施設整備において実現した卓越した成果があらためて評価されている。まさに日本の貴重な文化遺産として屹立していると言えよう。今後、丹下の建築作品等についての世界文化遺産候補としての検討を始める際、豊川斎赫氏のこの2つの著作は、最も本格的かつ包括的な基本資料となるに違いない。

その意味も込めて、これらを著し、さらに今も関連の研究成果を積み上げている豊川斎赫氏への今年度の日本イコモス奨励賞の授賞は、時宜を得たものと言える。

なお、『群像としての丹下研究室』は2014年度日本建築学会著作賞を受賞している。

鳥海 基樹（とりうみ もとき）

首都大学東京 准教授

【略歴】

1969年生。東京大学大学院修了、フランス政府給費留学生としてパリの社会科学高等研究院（EHESS）博士号（都市学）取得。現在、首都大学東京准教授。

【受賞理由】

フランスの文化遺産保護に関する一連の研究。

「修復憲章」（Carta del Restauro）と呼ばれる1931年のアテネ憲章で提唱された文化遺産保護のための「国際的助言機関」は第二次世界大戦を経た1964年に、ヴェニス憲章によって「国際記念物遺跡会議」（ICOMOS）として設立された。ヴェニス憲章は文化遺産を「人類共有の財産」と定義し、未来世代のためにこれら文化遺産を守るための国境を超えた我々の共同責任を強調し、文化遺産の保護・保存研究の国際化が進んだ。

日本イコモス国内委員会も率先して文化遺産保護・保存の国際交流・協力を努め、先進各国との研究交流に努めてきた。国際交流・協力にはこの分野での相互理解が不可欠である。幸い、日本の優れた研究者による諸外国の文化遺産保護研究は急速に進んだ。中でも、鳥海氏によるフランスの文化遺産保護に関する体系的研究は特に優れたものである。

一連の研究は、鳥海氏が現代都市計画の課題に対する広範な問題意識と、フランスの社会高等研究院で培った深甚なフランス社会への理解に裏付けられ、綿密な資料収集とフランスの中央と地方行政担当者への丁寧なヒヤリングを重ねた成果である。文化遺産保護を単なる技術的、制度的側面に留めず、文化・文明の課題として捉えたことによって、わが国の専門家に、より重要かつ社会的厚みをもった課題を提起している。同時に、国際社会でイコモスの活動を担う我々専門家に多くの示唆を与えてもいる。

この成果への感謝の意味を込めて、鳥海基樹氏への日本イコモス奨励賞の授賞は、文化遺産保護の分野での次世代の国際的活躍に道を拓くものとして、我々の期待を表明するものである。

鳥海基樹『オーダー・メイドの街づくり？パリの保全的刷新型界限プラン』2004年
鳥海基樹、他『フランスにおける歴史的環境保全－重層的制度と複層的組織、そして現在』2005年（独）東京文化財研究所国際文化財保存修復センター

鳥海基樹、他「フランスにおける建築・都市資本の再文化化政策」、『文化経済学』第6巻第2号、2008年

鳥海基樹、他「フランスにおける公開文化財建造物の総合的安全計画に関する研究－安全性能規定の体系、公的安全マニュアル、ルーアン大聖堂における検証とモデル化」、『日本建築学会計画系論文集』Vol. 73-No. 627、2008年

鳥海基樹、他「フランスにおける文化財建造物の防犯・防災に関する研究－内部専門組織を活用した安全性のさらなる総合化」、『日本建築学会計画系論文集』Vol. 74-No. 646、2009年

鳥海基樹、他「フランスにおけるワイン用ブドウ畑の景観保全に関する研究－一般の実態の整理とサン・テミリオン管轄区の事例分析」、『日本建築学会計画系論文集』Vol. 78-No. 685、2013年

〈本件に関するお問合せ先〉

日本イコモス国内委員会事務局

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

岩波書店一ツ橋ビル 13F 文化財保存計画協会気付

電話/FAX: 03-3261-5303

E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

Web: <http://www.japan-icomos.org>